



重要無形文化財保持者(人間国宝)  
鈴田 滋人 氏

昭和29年、佐賀県鹿島市生まれ。  
昭和54年武蔵野美術大学日本画学科卒業。

昭和56年から木版と紙型を併用する「鍋島更紗」の制作技法の研究と復興に力を注いだ父・鈴田照次の後を受け、木版摺更紗の研究・練磨を重ねてその技法を高度に体得し、独自の作風を確立されました。

日本伝統工芸展を中心に作品を発表し平成8年の第43回日本伝統工芸展で日本工芸会奨励賞を受賞、同10年の第45回展ではNHK会長賞(優秀賞)を受賞されています。

さらに、平成10年に第11回MOA岡田茂吉賞工芸部門優秀賞を受け、同15年には第23回伝統文化ポーラ賞優秀賞を受賞されました。



## 木版摺更紗

～現代によみがえる鍋島更紗～

「更紗」とは、室町時代後期から江戸初期、南蛮貿易などによってインドやジャワ等から舶載された、異国情緒あふれる文様の染め布です。

この影響を受けて我が国で製作されたものが「和更紗」であり、その中でも独自の技法と様式で位置づけられる「鍋島更紗」は、佐賀鍋島藩の保護のもとで製作され、その製品は献上品として使われた格調高いものです。

和更紗の技法は大きく分類すると、手書きによるものと型紙を用いるものがあり、木版摺更紗と名づけられたこの技法は、文様の輪郭線等を木版(地型)による摺りで行うとともに、その木版に合わせて彫った型紙を用いて染料や顔料を刷毛摺りし、さらに木版(上型)で線描きなどを摺り出すという、木版摺と型紙摺を併用する独自のものです。

# ～受け継がれる～



## のごみ人形

鈴田照次氏によって創始されました。終戦時の混乱と飢えの中で、ともすると荒みがちな世相に、潤いと楽しさを求めて創られた郷土玩具です。戦後数年を経て、祐徳稲荷神社の境内で売り出し、魔除け、開運の人形として好評を博しました。その後、この地方ばかりでなく郷土玩具として多くの人に親しまれてきました。

素朴で、懐かしい味わいの土鈴(どれい)で、単純化された形と色合いに郷土玩具の軟らかなぬくもりが感じられます。干支を主とするさまざまな小動物の「のごみ人形」は、昭和38年の年賀切手の図案に兎鈴が、平成3年には羊鈴、平成26年には稲荷駒が採用され、全国にも有名になりました。

